

Japan River Restoration Network News Letter

発行: 日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082

東京都千代田区一番町8番地

一番町FSビル3階

Tel : 03-6032-7121

Fax: 03-6032-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/japan/index.html>

巻頭書記

2006 年 11 月に日本、中国及び韓国の 3 ヶ国合同による『Asian River Restoration Network (アジア河川・流域再生ネットワーク ; ARRN) が発足し、同時に日本の窓口として Japan River Restoration

Network(日本河川・流域再生ネットワーク ; JRRN) が設立されました。皆様には、本 News Letter を通じて、ARRN・JRRN に関する様々な活動情報、取組みについてご紹介致します。

活動報告

JRRN の理念(案)とビジョン

JRRN の理念(案)

人と水の関わりの再生活動を通じ、誰もが水の循環を意識できる社会をつくり、次世代に豊かな水環境を引き継ぐことに貢献します。

keyword : 水循環、水意識、持続可能、流域、人のふれあい

JRRN のビジョン

JRRN の今後 3 年程度の活動目標として、ビジョンを策定いたしました。JRRN は今後、このビジョンに沿って様々な活動を展開していく所存です。

ネットワークの拡大 :

河川や流域の再生に関心を持つ人々の輪を広げます。これまで河川事業の中心的役割を担ってきた行政関係者や実務者のみならず、今後河川を活かす重

要な役割を担う個人や市民団体、企業等が再生の取り組みに参画できる仕組みをつくりま

情報の循環 :

参画する人々が、河川や流域の再生に関する情報を提供し、それを必要とする人々に平等に行き渡らせ、受け取ることでできる仕組みをつくり、参加者の知識・技術の向上を図ります。また、ここで循環する情報を、体系整理して蓄積します。

コミュニティの構築 :

河川や流域の再生に関わる個人・組織が自由に交流できる人の繋がりを築きます。また人々が各々の立場でネットワークに関与し、協働して河川や水辺の再生に取り組むことができる場を整えます。

イベント企画・開催：

河川や流域の再生に関する意識が広く人々の間で醸成され、また再認識されるよう、多様なイベントを企画します。また、この機会を通し、ネットワーク活動の活性化を図ります。

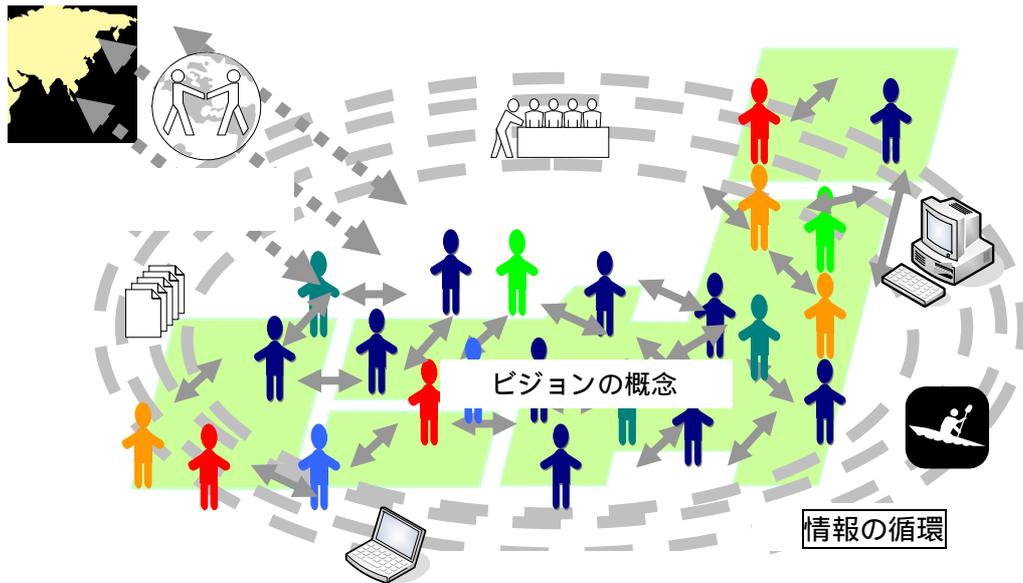
アジアの国々との連携：

ARRN の窓口として、中国、韓国をはじめとするアジアモンスーン地域との連携を強め、河川や流域

再生に関する情報や、各国のネットワーク運営に関する課題・解決策を相互に共有できる仕組みをつくります。

信頼ある組織の確立：

理念に向けた河川や流域の再生に関する取り組みを円滑に進めることができるよう、運営主体の組織体制および活動体制を整備し、社会的信用のある透明性の高い組織を目指します。



事例紹介

鶴見川における流域イニシアティブの展開

1960年頃から、鶴見川流域では、いくつかの流域の危機が認められるようになりました。洪水危機、平常時の支流の水の減少、水の汚染、自然環境の攪乱、減少などです。

このような問題に対応するために、行政が中心となり流域に関するビジョンやプランが3つまとめられました。その中で鶴見川流域水マスタープランが策定され、流域の枠組みの中でビジョンが明示されました。

鶴見川流域の保全を行う鶴見川流域ネットワークという市民活動があります。鶴見川流域ネットワークの活動には4つの事項があります。

1. 総合治水対策
2. 生物多様性保全モデル地域計画

3. 流域水マスタープラン啓発冊子

4. TR-net のビジョン

1. 総合治水対策

流域の急激な市街地の拡大で、流域に降った雨が森林や田畑に保水されることがなくなり、川幅を広げたり、土手を高くするなどで解決できない流域の対策を取り込んだ治水計画が、1980年・1990年に策定されました。

また、鶴見川の管理をする神奈川県、東京都、横浜市、川崎市、町田市の5者が連携して、鶴見川総合治水対策協議会という組織がつけられました。

こうして、2度にわたって流域の整備計画をまとめられ、川だけではなく、流域の対策を盛り込んだ治水計画が策定されました。

2. 生物多様性保全モデル地域計画

1998年に環境庁がまとめた「鶴見川流域における生物多様性保全モデル地域計画」のパンフレットが作成されました。

鶴見川流域は80%が市街化されて、もはや多様な生物がいるとは思われていませんでしたが、川筋や市街化調整区域の緑の中に多様な生物がいることがわかりました。

そのため、地域の中の生物を再発見し、どういった多様性の拠点があるかを確認し、可能なところから保全をしていこうとしています。

3. 流域水マスタープラン啓発冊子

流域水マスタープランは、2004年に策定された全体計画です。柱は、総合治水対策（River Flood Management）河川流域マネジメント（River Management during Normal Conditions）ランドスケープに依拠した自然の保全 河川防災 水辺と子供が付きあう地域文化、について整理されています。

今後はこの水マスタープランを推進するという構造となり、自治体のプランがアクションプランとなり、鶴見川流域ネットワークの各種の流域活動やクリーンアップイベント、ウォーキングがアクションプランとして組み込まれていきます。

4. TR-net のビジョン

会議・イベント等

6月のJRRN主催の会議・イベントはありません。
その他の河川関連会議・イベントをご紹介します。

第6回 北海道・川の日ワークショップ in 旭川
2007年6月2日(土)・3日(日)

旭川には、石狩川・忠別川・美瑛川・牛朱別川など、大小合わせて164本もの川が流れています。

その川のまちで、みんなが考える“いい川”を持ち寄り、それぞれの川の「タカラモノ」に光を当て、“いい川づくり”とは何か、みんなで知恵や元気を分かち合いながら、共通のイメージを育てていきませんか。

TR-net（鶴見川流域ネットワーク）は、行政区画ではなく、流域という枠組みで文化をつくりたいという発想で、生まれたものです。

TR-netは流域枠で活動し、洪水対応だけでなく、そこで文化、歴史、自然のこと、様々なことに取組んでいく予定です。

本記事は、流域再生にかかわるワークショップ(2005.6.24開催)での岸由二教授(慶應義塾大学経済学部)の講演内容をJRRN事務局で編集したものです。



TR-net の市民活動

お問い合わせ

〒070-0044

旭川市常磐公園 石狩川治水学習館内

「第6回北海道・川の日ワークショップ in 旭川」

実行委員会運営事務局

電話・FAX：0166-23-8417

URL <http://www.kawanohi2007.com>

2007年度 河川技術に関するシンポジウム

2007年6月7日(木)・8日(金)

河川部会は1997年度に土木学会水理委員会(現水工学委員会)に発足した部会です。既存の3つの部

会（基礎水理部会、環境水理部会、水文部会）の連携協力を推進するとともに、学術と技術との間の橋渡し、官・学・民の連携、従来の河川工学以外の河川にかかわる学術との学際領域への展開など、河川の技術に求められるさまざまなインタフェース的側面を追求することを目的としています。

冊子ビデオ等の紹介

多自然型川づくりを越えて（2007.4）

妹尾 優二(著)、吉村 伸一(著)、吉川 勝秀(編纂)

治水も環境も共に満たす川づくりとして、多自然型工法は90年代に急速に普及しました。15年を経て、生態系への理解、現場の技術者の育成、河川用地の確保等、課題は山積しています。そこで本書は、実践を踏まえた多自然型川づくりの基本をまとめ、さらに、自然と共生し、都市・地域の軸となる「空間としての川づくり」を提案します。

シンポジウムに関する問合せ先

〒376-8515 群馬県桐生市天神町 1-5-1

群馬大学大学院工学研究科社会環境デザイン工学専攻

清水義彦（河川部会長）

TEL：0277-30-1642 / FAX：0277-30-1601

E-mail：sympo2007@ce.gunma-u.ac.jp

花鳥風月のまちづくり（2007.5）

花鳥風月編集委員会（著）

水辺、川、トンボ、横浜の谷戸を愛し、横浜を中心にその保全と人との関わり、研究に生きた故・森清和(もりせいわ)氏。彼に出会った人たちが、彼の作成した報告書「花鳥風月のまちづくり」を"肴"に、遣したメッセージを読み取ります。本書は、川、生きもの、暮らし、市民と行政、環境学習の実践の現在など、エコシティ横浜発の明日を語り合った座談集で、各章にそって、そのテーマにふさわしい複数の参加者が思いを伝えます。

事務局からのお知らせ

JRRN は設立して半年が経過しました。現在の会員数は約 200 名です。

JRRN として今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

JRRN の登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。

行政、民間団体、NPO、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) ニュースレターによる国内外の河川再生情報が配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。

(3) 必要に応じた国内外の河川整備事例の情報収集の支援を受けられます。

(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信可能となります。

JRRN 事務局

(財)リバーフロント整備センター(RFC)

問い合わせ先

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部

東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

技術普及部 伊藤(将)

Tel: 03-3265-7121

Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net